

厚生文教常任委員会行政視察報告

1. 視察日程 平成26年10月20日（月）～22日（水）
2. 視察場所 北海道幕別町図書館・幕別町百年記念ホール
北海道音更町
北広島市エコミュージアムセンター知新の駅
千歳市防災学習交流施設「そなえーる」
3. 視察参加者 河野 正治 藤本 治郎 真砂 矩男 阿部 直瑞
西 紀子 中山田 昭徳 二宮 健太郎
(随行) 穴見 久美子
4. 視察事項

北海道幕別町

図書館（図書館蔵書管理システムについて）

幕別町は、北海道十勝の中南部に位置し、帯広市に隣接する人口27,600人の町であり、平成18年度より27,000人の人口を維持しており、現在は増加傾向にある。基幹産業は農業で、パークゴルフ発祥の地でもある。

図書館は、本館、札内分館、忠類分館の3施設から成り蔵書数228,000冊にのぼる。蔵書管理方法を「分類の管理」から「本棚と本の関係の管理」へ変更し、独自性を重視した本棚構成、蔵書点検、貸出返却予約等の一括処理、返却時の棚点検で蔵書点検作業が実施可能な管理システムを導入。図書館業務を効率化し、利用者のサービス向上に努めている。図書館ホームページは、PC、スマートフォン、タブレット等の機器に適応した画面表示で、バーチャル本棚機能を有している。

杵築市においても平成29年度を目標に図書館建設が計画されている。蔵書数228,000冊、貸出冊数208,000冊、利用者数53,000人の幕別町と比較して、現状ではすべての面で劣っている。図書館建設の意義をより多くの市民に啓発すべきと考える。

委員からは、「人口の半数以上の方が登録しているが、どのような工夫をしているのか」との質問があり、「プレミアム利用者カードの配布等により効果を上げている」という説明があった。また、「忠類分館の利用時間は午後9時までとなっているがどうしてか」という質問があり、「福祉施設内に分館があるので、6時までは図書館職員が対応し、9時までは福祉施設の職員が対応している」と説

明があった。

《北海道幕別町百年記念ホール視察》

百年記念ホールは「文化ホール機能」「学習援助機能」「図書館分館機能」の3つの機能を兼ね備え、生涯学習の施設として、総事業費31億円をかけ平成8年3月に竣工した素晴らしい施設である。

杵築市における文化会館建設構想にも一見すべき施設であると思われる。



北海道音更町

音更町（介護予防事業の取り組みについて）

音更町は十勝平野のほぼ中央に位置し、帯広市に隣接している。昭和40年代から順調に人口は増え、現在45,400人で道内の町村で最も多くの人口を有する町となっている。基幹産業は、農業と食品製造の工業である。

介護予防の取り組みについて、平成18年度より65歳以上の高齢者を対象に「介護予防基本チェックリスト」を送付、これにより各個人ごとの生活機能を確認し、必要な介護予防の方法を掌握する制度を確立している。その結果、生活機能の低下が心配される人にとっては、転倒骨折予防教室外3教室からなる「いきいき介護予防教室」への参加をすすめ、要支援、要介護者にならないための介護予防事業として成果を上げている。認知症予防教室は子どもと交流する等工夫している。また徘徊高齢者等SOSネットワークシステムを構築し、地域全体で高齢者・障がい者を守る体制づくりを整え今後訓練を予定している。

杵築市においては既に平成 23 年度より地域包括支援システムの構築がされ「ケア会議」の効果により要介護から、要支援へ、要支援から健全者へと変わった者もいる。杵築市のほうが一步進んでいるように感じた。



北海道北広島市

北海道北広島市（北広島エコミュージアム構想について）

北広島市は石狩平野の中央に位置し、札幌市に隣接している。昭和 43 年に町制を施行し、その後人口は増え続け平成 5 年に市制へ移行人口 60,000 人、産業別人口は第 3 次産業就業者が 76% を占める都市である。

エコミュージアム知新の駅は、平成 24 年に市が決定した「北広島団地内小学校の統合に伴う学校跡地施設活用計画」により、平成 26 年度に開館された施設である。建物は、校舎棟 4,660 m²、体育館棟 788 m²、センター棟 952 m²、計 6,400 m² の広大なエコミュージアムセンターである。

エコミュージアムセンターの役割は、市の歴史や自然について各々が持っている断片的な知識・情報を体系化することにより、まちの歴史や実像を浮き彫りにし、互いを関連づける場となっている。また、エコミュージアム事業に知新の駅を訪れた方が、まちの歴史や自然について新たな知識を得ることにより、まちを再発見し、共通の関心を持つ人との出会いの場となっている。

（注）エコミュージアムとは、「ある一定の地域に残された史跡、建造物、産業遺跡等に注目し、これを将来にわたって保存すべき“遺産”として展示したり、活用したりすることでその地域全体を屋根のない博物館とすること」。これは、

新しいタイプの地域づくりの手法である。

都市化した中での小学校跡地の利用であり、過疎が進み児童数が減少して統合計画がされている杵築市の状況とは大きく異なるが、廃校となる小学校の跡地利用計画を早急に検討すべきと考える。



北海道千歳市

千歳市防災学習交流施設「そなえーる」視察

千歳市は、北海道の中南部石狩平野の南端に位置し、札幌市や苫小牧市等に隣接し、人口は94,700人で、毎年増加傾向にある。産業別人口は、第3次産業就業者数が全体の75%を占めている都市である。特色は、自衛隊基地があり人口の30%を自衛隊関係者が占めていることである。

防災学習センター「そなえーる」は、平成18年度から22年度の5か年計画で建設した施設で、整備総面積8.4ha、総事業費21億円をかけた防衛省の補助事業で整備した施設である。施設の目的は、市民（自主防災組織）、ボランティア、防災関係機関が、防災学習や防災訓練等を実施することで市民の防災力を高めることにあり、災害時には災害対策の拠点として使用するということである。

視察時には多くの園児等が、体験学習に訪れていた。我々も地震体験や、煙避難体験、予防実験の学習も実際に体験することができ、大変勉強に



なった。杵築市には、立派な防災学習センターはないが、備えあれば憂いなしの諺のとおり、市民への日常の防災学習の必要性を強く感じた研修であった。